

# 補習校における Chromebookの活用

今年度、本校では児童生徒用のChromebook(25台)を購入したことで、1クラスであれば全員が同時にChromebookを活用できる環境が整いました。今年度の実践の中から、いくつかの授業を紹介いたします。

## ③ 中学部2年生・数学「スクラッチでプログラミング」

(指導教員: 名生有公子)

中学部2年生数学授業では、連立方程式の発展学習として、スクラッチ(Scratch)を用いて鶴亀算を解く為のプログラミング作りに挑戦しました。スクラッチ(Scratch)とは、マサチューセッツ工科大学で開発され、カラフルなブロックを感覚的に操作しながら、まるでブロック遊びをしているように学習できるプログラム言語です。全員がChromebookを活用し、「数学とプログラミング技術のコラボ授業」に熱中していました。



## ④ 中学部2年生・国語「魅力的な提案をしよう」

(指導教員: 岡崎尚子)

中学部2年生国語授業「魅力的な提案をしよう」では、各グループで決めたテーマについて、「聴き手に興味を持ってもらえるためのプレゼンテーション作り」に挑戦しました。この教材では、取り組みから発表まで、全員がChromebookのGoogleスライドを活用しました。これにより、グループ内の情報共有が容易となり、また欠席者についても自宅で作業を進めることができました。どのグループも各自の発想とグループ内のチームワークを活かしたプレゼンテーションが完成しました。



このように、昨年4月以降、中学部を中心にChromebookを活用した授業に挑戦中です。ただ、実践を積み重ねるにつれ、課題も明らかになってきました。

その第一は、Chromebook活用クラスの調整です。現在、小中高を合わせると27クラスが同じ授業時間帯に授業を行っています。よって、同じ授業時間帯に複数の希望クラスが出た場合には、授業変更や使用時間変更が必要になることです。

第二はChromebookを使用するまでの時間の効率化です。現状ではその都度、保管場所から使用教室まで運搬し、全てのChromebookをセットアップしなければならないため、その準備にかなりの時間を費やしています。

課題はあるものの、これからも「走りながら考える」姿勢を大切にし、子供達に「学ぶ楽しさ」を体感させることのできる授業づくりに挑戦し続けたいと思います。今後ともヒューストン日本語補習校へのご支援、ご協力をお願い致します。(ヒューストン日本語補習校校長 岡林健児)

## ① 小学部4年生・国語「新聞作り」

(指導教員: リッテンマイヤー美智子)

小学部4年生国語授業「新聞を作ろう」では、グループごとChromebookを活用しました。具体的には、グループごとにテーマ(生き物の習性、色々なスポーツ、給食の日米の違いなど)を決め、その内容に沿った資料検索をしました。子供達は現地校でもパソコンを活用していることもあり、どのグループもChromebookそのものの使用やネット検索にも戸惑うことなく、和気あいあいとした雰囲気の中で、効率的に資料を収集していた姿が印象的でした。



## ② 中学部3年生・国語「漢字の造語力」

(指導教員: 佐藤暁子)

中3国語の授業「漢字の造語力」では、3人一組のグループを作り、各グループにChromebook1台と漢字字典1冊を配付し、漢字調べを行いました。学習のねらいは、「外来語を日本人に分かりやすい漢字熟語に翻訳創作する」という内容であり、各グループとも、様々なサイト(漢字辞典サイト、外来語の意味調べなど)を活用しながら、自ら学習を深め、より分かりやすい漢字熟語の創作へとつなげていました。

作品例:「テレビ」→「楽報見聞」「見伝」「動音画面」  
「スキンシップ」→「触心交輪」「肌触」「人接心交」など

